福岡歯科大学
医科歯科総合病院概要
2019

Fukuoka Dental College General Hospital for Medicine & Dentistry

ご　挨　拶

病院長
阿南　　壽

本院はこれまで昭和48年に開設され、平成17年からは「福岡歯科大学医科歯科総合病院」として生まれ変わり、現在では、23の医科診療科と12の専門歯科を含む４つの歯科診療科からなる総合病院として長年に渡って地域の皆さまにご利用いただいております。

福岡歯科大学医科歯科総合病院は、病院の基本方針として、「１. 患者さまの人格を尊重した優しさのある医療を提供し、医療倫理の向上をめざします。2. 医科歯科総合病院として多職種が協力し、高度な医療を推進します。3. 地域の基幹医療施設として、地域包括ケアシステムに応じた連携医療を充実させます。4. 高い倫理観を備え、患者さんの身になって考えることのできる医療人の育成に努めます。」を標榜しております。また、本院では福岡歯科大学、福岡看護大学、福岡医療短期大学、介護老人保健施設（サンシャインシティ）、特別養護老人ホーム（サンシャインプラザ）、特別養護老人ホーム（サンシャインセンター）の関連病院として、日々、医科診療と歯科診療とが行われています。

令和元年となる2019年に病院の建替工事が開始されました。新病院は延べ床面積が現在の病院の約1.5倍となる予定で、2020年秋の開院を目指し、工事が進められています。工事期間中は安心・安全を第一とし、リスク回避に万全を尽くして進めさせていただきます。そのため、敷地内の患者さまの駐車場の場所が昨年までと変わっております。患者さまの駐車場への移動につきましては、誘導員によりご案内させていただいております。患者の皆さまには大変ご不便をおかけしますが、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

本院では医科と歯科とが協力して、患者さまの健康寿命の延伸に貢献するため、多職種の医療者による「医科歯科連携」に力を入れています。また、近年お口の病気が全身の病気を悪化させたり、全身の病気の症状がお口に現れたりすることがわかってきました。そのため最近では、全身の健康についてのご相談とともに、治りにくい口内炎をはじめとするお口の健康についてのご相談をいただくことも多くなっています。

病院の理念として、私たちは豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、安全で質の高い思いやりのある病院をめざしています。当院では、全身疾患をお持ちの方やご高齢の方にも安心して医科と歯科の診療を受けていただけます。これからも地域医療支援病院として、地域に根ざし、地域の皆さまに信頼され、地域に貢献できる病院を目指す所存でございます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

目　　次

1．沿革概要 …… 4

2．組織図 …… 6

3．管理者および役職員 …… 7

4．職員数 …… 8

5．診療科別患者数 …… 9

6．診療科別症例数 …… 10

7．診療科の紹介 …… 11

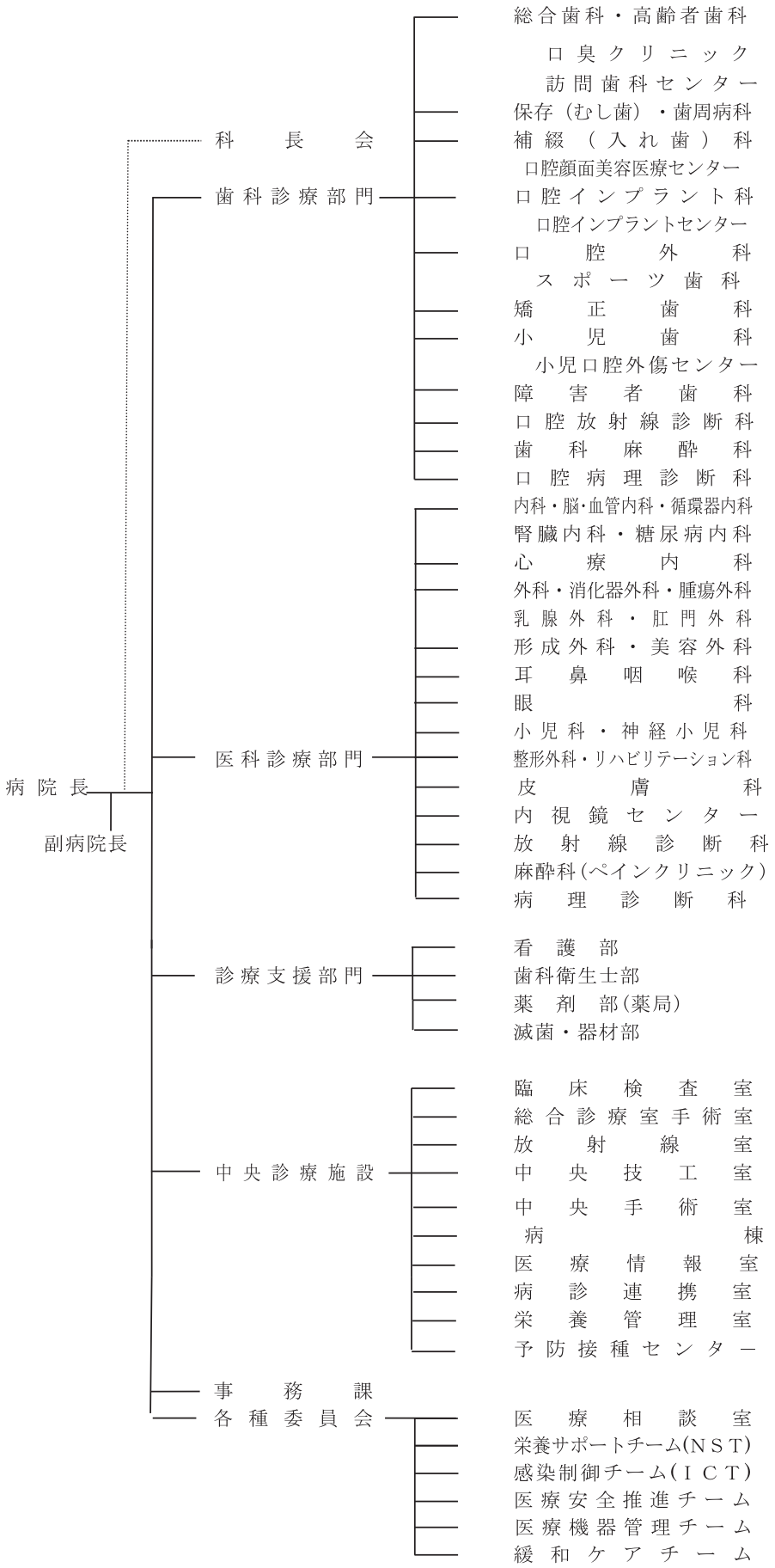
8．医療機関の承認・指定状況…… 32

１．沿革概要

昭和４７年　４月　１日	福岡歯科診療所開設　宮崎三雄教授 診療所長に就任
昭和４７年　７月２７日	学校法人 福岡歯科学園寄附行為認可
	福岡歯科大学の設置認可
昭和４７年１０月　１日	松本洋一教授 初代附属病院長に就任
昭和４７年１０月２３日	福岡歯科大学附属病院の開設認可
昭和４８年　２月２１日	福岡歯科大学附属病院開設（病床３０床）
昭和４８年　４月　１日	福岡歯科大学開学
	附属病院歯科診療を開始
昭和４９年　６月　１日	内　科　開　設
昭和５０年　４月　７日	歯科入院病棟開設
昭和５０年　７月　１日	外　科　開　設
昭和５０年　８月　１日	基準寝具承認
昭和５０年１１月　１日	基準給食承認
昭和５１年　８月２４日	病床１９床増設
昭和５１年　９月１６日	内科、外科入院病棟開設
昭和５２年　８月　１日	基準看護特１類承認
昭和５２年１０月　１日	第１期生臨床実習開始
昭和５３年　４月　１日	麻酔科開設
昭和５４年　２月　５日	古本克磨教授 附属病院長に就任
昭和５４年　８月　１日	病床１床増設（合計５０床）
昭和６０年　４月　１日	松浦智二教授 附属病院長に就任
昭和６２年　６月　１日	卒業直後臨床研修開始
平成　元年　４月　１日	吉田　穰教授 附属病院長に就任
平成　元年１０月　１日	予防歯科開設
平成　元年１１月　１日	矯正歯科・小児歯科 診療科目の届出
平成　２年　４月　１日	松尾　繁教授 附属病院長に就任
平成　２年　６月２２日	病棟避難スロープ及び霊安室設置
平成　３年　４月３０日	高齢・障害者歯科開設
平成　５年　４月　１日	松本光生教授 附属病院長に就任
平成　６年　４月　１日	冨岡徳也教授 附属病院長に就任
平成　７年　３月２０日	磁気共鳴コンピューター断層システム(ＭＲＩ)の設置
平成　８年　３月２５日	顎機能検査室の設置
平成　８年　５月２８日	高速ヘリカルコンピューター断層システム(ＣＴ)の設置
平成　８年　９月２４日	口腔インプラント科開設
平成　８年１１月　１日	歯科口腔外科 診療科目の届出
平成　９年　５月２７日	循環器科、消化器科 診療科目の届出
平成１０年　４月　１日	松本光生教授 附属病院長に就任
平成１１年１０月　１日	口臭クリニック・スポーツ歯科・訪問歯科開設
平成１２年　３月２９日	病棟増改築工事の安全祈願祭施行

平成１２年　４月　１日	羽生哲也教授 附属病院長に就任
平成１２年１１月３０日	病棟増改築工事完成
平成１３年　４月　１日	総合歯科開設
平成１４年　４月　１日	本田武司教授 附属病院長に就任
平成１５年　２月　１日	本川渉教授 附属病院長に就任
平成１６年　２月２０日	病院３階総合診療室手術室改修工事
平成１６年　３月２２日	病院玄関（エントランス）周り改修工事
平成１６年　３月３０日	病院３階シミュレーション実習室改修工事
平成１７年　１月２５日	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院へ改称
平成１７年　２月　１日	磁気共鳴コンピューター断層システム(ＭＲＩ)の更新
平成１７年　４月　１日	心療内科開設、肛門科 診療科目の届出
平成１７年　７月１４日	特定共同指導を受審
平成１８年　２月１２日	カルテ検索システム導入
平成１８年　９月２９日	社会保険医療担当者の個別指導の実施
平成１９年　３月２３日	全身用コンピューター断層撮影装置（ﾎﾞﾘｭｰﾑCT ｽｷｬﾝｼｽﾃﾑ）の更新
	歯科用ＣＴ 3D Ｘの設置
平成１９年　４月　１日	石川博之教授 病院長に就任
	耳鼻咽喉科・形成外科・口腔顔面美容医療センター開設
平成１９年　７月　１日	病院情報システム（HIS）稼動（ｵｰﾀﾞﾘﾝｸﾞｼｽﾃﾑ開始）
平成２０年　５月１９日	(財)日本医療機能評価機構認定証授与
平成２１年　４月　１日	本川渉教授 病院長に就任
平成２２年　４月　１日	松浦正朗教授 病院長に就任
	眼科開設
	放射線診断科、脳・血管内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科、消化器外科、腫瘍外科、乳腺外科、肛門外科、美容外科
	診療科目の届出
平成２３年　４月　１日	小島寛教授 病院長に就任
平成２４年　５月２２日	病理診断科目の届出
平成２５年　４月　１日	小児科、整形外科開設
平成２５年　６月　７日	(財)日本医療機能評価機構更新認定
平成２６年　４月　１日	阿南　壽教授、大星博明教授 副病院長に就任
平成２６年１１月　３日	電子カルテシステム導入、運用開始
平成２７年　４月　１日	池邉哲郎教授 病院長に就任
平成２７年１０月　１日	皮膚科開設
平成２８年　４月　１日	髙橋　裕教授、篠原徹雄教授 副病院長に就任
平成２８年　５月２７日	リハビリテーション科　診療科目の届出
平成２９年　４月　１日	樋口勝規教授　副病院長に就任
平成２９年１０月　１日	訪問歯科センター開設
平成２９年１１月　１日	内視鏡センター開設
平成３０年　４月　１日	阿南　壽教授、川野庸一教授　副病院長に就任
平成３０年　５月１１日	(財)日本医療機能評価機構更新認定
平成３０年１０月　１日	小児口腔外傷センター開設
平成３１年　４月　１日	阿南　壽教授　病院長に就任

2．組　織　図


病院長
副病院長
科長会
歯科診療部門
総合歯科・高齢者歯科
口臭クリニック
訪問歯科センター
保存（むし歯）・歯周病科
補綴（入れ歯）科
口腔顔面美容医療センター
口腔インプラント科
口腔インプラントセンター
口腔外科
スポーツ歯科
矯正歯科
小児歯科
小児口腔外傷センター
障害者歯科
口腔放射線診断科
歯科麻酔科
口腔病理診断科
医科診療部門
内科・脳・血管内科・循環器内科
腎臓内科・糖尿病内科
心療内科
外科・消化器外科・腫瘍外科
乳腺外科・肛門外科
形成外科・美容外科
耳鼻咽喉科
眼科
小児科・神経小児科
整形外科・リハビリテーション科
皮膚科
内視鏡センター
放射線診断科
麻酔科（ペインクリニック）
病理診断科
診療支援部門
看護部
歯科衛生士部
薬剤部（薬局）
滅菌・器材部
中央診療施設
臨床検査室
総合診療室手術室
放射線室
中央技工室
中央手術室
病棟
医療情報室
病診連携室
栄養管理室
予防接種センター
事務課
各種委員会
医療相談室
栄養サポートチーム（NST）
感染制御チーム（ICT）
医療安全推進チーム
医療機器管理チーム
緩和ケアチーム

3．管理者および役職員

病院長　阿南　　壽　　副病院長　城戸寛史

副病院長　川野庸一　　副病院長　樋口勝規

【診療科長】

診療科名	科長	診療科名	科長
総合歯科・高齢者歯科	廣藤　卓雄	内科・脳・血管内科・循環器内科・腎臓内科・糖尿病内科	大星　博明
訪問歯科センター	森田　浩光	心療内科	金光　芳郎
保存(むし歯)・歯周病科	坂上　竜資	外科・消化器外科・腫瘍外科・乳腺外科・肛門外科	池田　哲夫
補綴(入れ歯)科	松浦　尚志	内視鏡センター	池田　哲夫
口腔インプラント科	城戸　寛史	形成外科・美容外科	萩家　康弘
口腔外科	池邉　哲郎	耳鼻咽喉科	山野　貴史
矯正歯科	玉置　幸雄	眼科	川野　庸一
小児歯科・小児口腔外傷センター	尾崎　正雄	小児科・神経小児科	鳥巣　浩幸
障害者歯科	小島　　寛	整形外科・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	井上　敏生
口腔放射線診断科・放射線診断科	湯浅　賢治	皮膚科	古村　南夫
歯科麻酔科・麻酔科(ペインクリニック)	谷口　省吾	口腔病理診断科・病理診断科	橋本　修一

【施設長】

施設名	施設長	施設名	施設長
臨床検査室	大星　博明	病棟	山野　貴史
総合診療室手術室	城戸　寛史	医療情報室	大星　博明
放射線室	湯浅　賢治	病診連携室	池田　哲夫
中央技工室	城戸　寛史	栄養管理室	池邉　哲郎
中央手術室	谷口　省吾	予防接種センター	岡田　賢司

【部・課】

部局・課名	部・課長	部局・課名	部・課長
看護部	松尾　佳代	薬局	外尾　典子
歯科衛生士部	手嶋　直美	病院事務課	福永　重智
滅菌・器材部	樋口　勝規		

4．職員数

【歯科医師】 〔R1.5.1現在〕

教　授	准教授	講　師	助　教	医　員	研修歯科医
15	7	16	38	54	42

【医師】

教　授	准教授	講　師	助　教
8	2	3	16

【医療職等】

薬剤師	臨床検査技師	診療放射線技師	歯科技工士	管理栄養士	視能訓練士
3	4	5	4	1	2

視能検査技師	理学療法士	言語聴覚士	ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ	歯科衛生士	看護師
1	3	2	2	32	45

臨床研修歯科医

プログラム数	募集定員	
	複合型	単独型
2	95	20

【採用数】

平成29年度	平成30年度	平成31年度
40	32	42

【協力型臨床研修施設数】

平成29年度	平成30年度	平成31年度
89	90	89

5. 診療科別患者数

（平成30年度）

診療科名	外来		入院	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均
総合歯科	15,230	56.3	—	—
口臭クリニック	121	0.5	—	—
高齢者歯科	11,422	42.6	—	—
訪問歯科	2,755	10.3	—	—
保存（むし歯）・歯周病科	21,178	79.0	—	—
補綴（入れ歯）科	13,946	52.0	—	—
口腔インプラント科	7,798	29.1	6	0.0
口腔外科	15,512	57.9	4,378	12.0
スポーツ歯科	0	0.0	0	0.0
口腔顔面美容医療センター	881	3.3	0	0.0
矯正歯科	11,949	44.6	—	—
小児歯科	10,428	38.9	61	0.2
障害者歯科	4,877	18.2	38	0.1
歯科麻酔科	469	1.8	—	—
放射線科	18,096	67.5	—	—
歯科計	134,662	502	4,483	12.3
内科	14,805	55.2	1,023	2.8
小児科	4,232	15.8	—	—
心療内科	2,617	9.8	15	0.0
外科	3,616	13.5	1,165	3.2
内視鏡センター	999	3.7	1,896	5.2
整形外科	7,635	28.5	1,214	3.3
皮膚科	5,196	19.4	68	0.2
形成外科	1,866	7.0	20	0.1
耳鼻咽喉科	5,396	20.1	1,092	3.0
眼科	6,856	25.6	940	2.6
麻酔科	1,499	5.7	—	—
医科計	54,717	204	7,433	20.4
合計	189,379	706	11,916	32.7

a 年度別患者数

外来			入院		
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
166,374	183,227	189,379	9,558	10,082	11,916

b 年度別1日平均患者数

外来			入院		
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
622	682	706	26.2	27.6	33

6. 診療科別症例数

年間手術症例数			
診療科	臨床指標		実績
口腔外科	手術症例数		275
	口腔がん手術		37
	上下顎同時骨切り術		39
外科・内視鏡センター	手術症例数		85
	食道	鏡視下食道亜全的+再建	3
		狭窄拡張術	1
	胃	腹腔鏡下幽門側胃切除	4
		残胃全摘	2
		内視鏡的粘膜下層切開剥離術	2
	結腸・直腸	腹腔鏡下結腸切除	4
		腹腔鏡下低位前方切除	2
		開腹結腸切除	2
	肝臓	腹腔鏡下肝部分切除	3
	膵臓	膵頭十二指腸切除	3
	胆嚢	腹腔鏡下胆嚢摘出術	15
	ヘルニア	内視鏡下根治術（TEPP, TAPP)	18
	虫垂	腹腔鏡下虫垂切除術	3
	肛門疾患	痔核手術	8
		直腸脱	1
	乳腺	乳癌根治術	5
	その他		9
眼科	手術症例数		287
	白内障手術		252
	硝子体手術		12
	緑内障手術		11
	眼瞼手術		10
	涙道内視鏡手術		9
整形外科	手術症例数		45
	外反母趾手術件数		6
	骨折手術数		10
耳鼻科	手術症例数		56

年間症例数		
診療科	臨床指標	実績
内科	糖尿病教育入院	13
	頸部血管エコー件数	28
	心エコー件数	160
外科・内視鏡センター	上部消化管内視鏡	576
	ESD	3
	下部消化管内視鏡	336
	EMR・ESD	54
	逆行性胆管膵管造影 (ERCP)	74
	ダブルバルーン内視鏡	4
整形外科	リハビリテーション新患数	212
耳鼻科	嚥下リハビリテーション件数	643
	純音聴力検査	512
麻酔科	全身麻酔件数	498
	静脈内鎮静件数	197
	外来患者件数	1533
皮膚科	外来手術件数	157
	レーザー件数	671
麻酔科	全身麻酔件数	498
	静脈内鎮静件数	197
	外来患者件数	1533
歯周病科	歯周外科件数	122
	メンテナンス件数	4724
口腔インプラント科	インプラントのインテグレーション達成	132症例
		239本
矯正歯科	外科的矯正治療の開始件数	29
病理診断科	院内病理診断数(組織診)	1246
	院内病理診断数(細胞診)	286
	術中迅速診断件数	37
	臨床病理カンファレンス(CPC)回数	4

7．診療科の紹介

内科

科長 大星博明

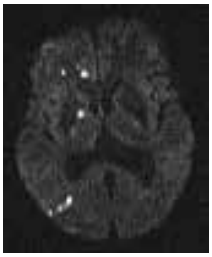
概要

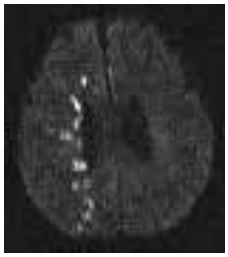
一般内科全体を診療していますが、特に脳卒中、心臓病、慢性腎臓病に対して、MRI や CT、超音波検査、生理検査などを迅速に行う体制が整っており、緊急入院にも対応した診療を行っています。これらの疾患の原因となる生活習慣病についても、二次性高血圧症の精密検査や糖尿病の治療・教育入院も行っております。特に糖尿病の合併症については精密検査の出来る体制を整えており、病診連携を基本とした丁寧な医療を提供することを心懸けています。
また、超高齢化社会に対応し、耳鼻科や高齢者歯科と共同して嚥下障害の精密検査・治療にも取り組んでいます。老人保健施設や指定介護老人福祉施設（特養）を関連施設として有しており、同施設への入所についても連携を密にした対応を行っています。

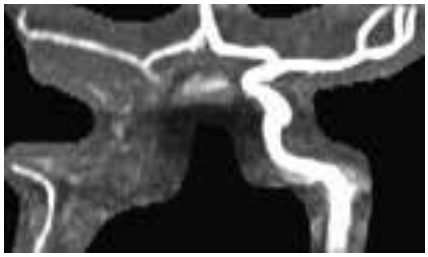
対象疾患とアピール・得意分野

- 脳卒中：脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頸動脈狭窄・閉塞症など。
- 循環器疾患：治療抵抗性高血圧、二次性高血圧、虚血性心疾患など。
- 腎臓病：無症候性血尿、蛋白尿、腎炎、電解質異常、急性および慢性腎不全など。
- 糖尿病：1型糖尿病、2型糖尿病、二次性糖尿病など。
- 頭部 MRI や CT、超音波検査などを迅速に行う体制が整っており、緊急入院に対応しています。
- 糖尿病の治療・教育入院を行っています。
- 常勤の内科系学会認定専門医が、それぞれの専門的診療にたずさわっています。
- 超高齢化社会に対応して、高齢者が有する多くの疾患に対して、包括的な診療を行っています。

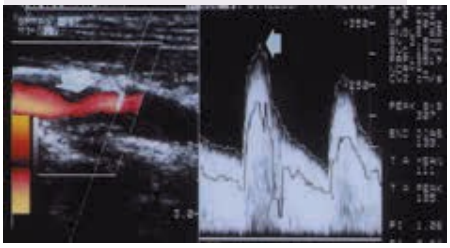
頭部 MRI/MRA



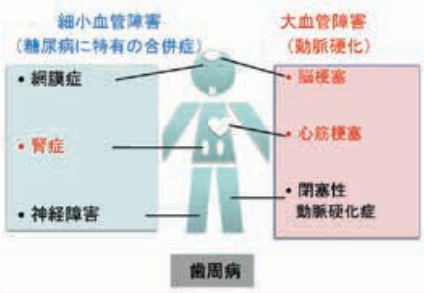




頸部血管エコー



糖尿病教室での合併症評価



学会認定施設

日本老年医学会、日本高血圧学会

学会認定専門医

日本内科学会、日本脳卒中学会、日本循環器学会、日本高血圧学会、日本腎臓病学会、日本透析学会、日本糖尿病学会、日本老年医学会

外科・内視鏡センター

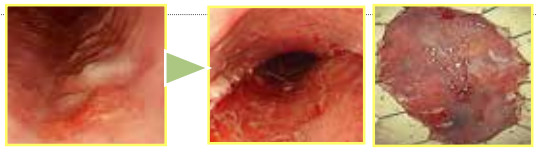
科長　池田哲夫

概要

福岡学園 福岡歯科大学 総合医学講座 外科学講座は昭和50年４月、樺木野修郎教授（久留米大学医学部第1外科）によって開設され、第２代は副島一彦教授（九州大学第二外科：昭和53年４月～平成８年３月）、第３代は是永大輔教授（九州大学第二外科：平成８年12月～平成15年３月在職）、第４代は鴻江俊治教授（九州大学第二外科：平成15年４月～平成22年3月）、第5代は、篠原徹雄教授（福岡大学消化器外科：平成22年４月～平成31年3月在職）が担当されました。一方で外科治療のうちで消化器の分野は内視鏡（腹腔・胸腔鏡を含む）治療が中心となってきたため、平成29年11月1日より内視鏡センターが開設され、初代教授として池田哲夫（教授、九州大学第消化器・総合外科（第二外科））が就任しましたが、平成31年度からは篠原徹雄教授の退職に伴い、外科と内視鏡センターの教授を兼任するに至りました。令和元年度より新たに、鼡径ヘルニアが専門の和田寛也（講師）、乳腺疾患が専門の渋田健二（臨床教授）、直腸・肛門疾患が専門の守永和正（臨床教授）、肝胆膵疾患が専門の橋本直隆（助手）、消化管疾患が専門の堤亮介（助手）を迎え専門性の高い医療を目指しております。

各分野での診療概要

食道疾患



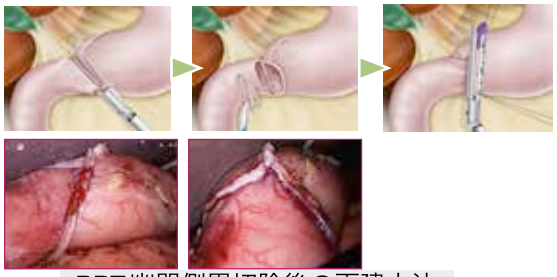
食道粘膜内癌に対するESD

胸腔鏡・腹腔鏡下食道亜全摘

食道癌は上皮や粘膜固有層にとどまるものはリンパ節転移が極めて稀であるため、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を安全性を向上させるため全麻下に行っています。ESDの適応にならなかった早期癌の一部と進行癌に対しては胸腔鏡・腹腔鏡下食道亜全摘術を行っています。開胸開腹の食道手術に比べ侵襲が大きく軽減され、呼吸器合併症が減少し術後の回復が極めて早くなりました。術後の吻合不全を防ぐ目的で組織の酸素代謝を近赤外線カメラで定量イメージングする装置を開発し臨床応用を開始しました。

Tsutsumi R, Ikeda T, et. al. Efficacy of Novel Multispectral Imaging Device to Determine Anastomosis for Esophagogastrostomy. J Surg Res. 2019 May 3;242:11-22. doi: 10.1016/j.jss.2019.

胃疾患

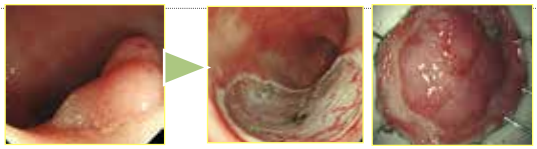


BBT:幽門側胃切除後の再建方法

胃癌、潰瘍、MALTリンパ腫などの原因となるヘリコバクターピロリ(ピロリ菌)のABC検診をはじめとする診療を行っています。早期胃癌に対しては拡大NBI、超音波内視鏡により適応と判断された病巣に対してはESDを施行しており、病変の大きさ、部位、静脈麻酔認容性に応じて全身麻酔下に行っています。ESD適応外の早期胃癌および進行胃癌に対しては完全腹腔鏡下の胃切除術（全摘、幽門側、噴門側切除）を行っており、幽門側胃切除後の再建方法であるBBTは我々が考案した術式です。

Ikeda T, et.al. Progression from laparoscopic-assisted to totally laparoscopic distal gastrectomy: comparison of circular stapler (i-DST) and linear stapler (BBT) for intracorporeal anastomosis. Surg Endosc. 2013 Jan;27(1):325-32.

大腸・直腸疾患



大腸粘膜癌に対するESD

完全鏡視下の結腸再建

大腸内視鏡の施行により多くの大腸癌が予防可能であることが明らかとなりました。大腸内視鏡が受け辛い原因である前処置の煩雑さ、時間がかかる、痛い、を和らげる目的で食物繊維とヨーグルトによる前処置、自宅での下剤内服、水浸法を導入しました。発見されたポリープはできる限り同時にコールドポリペクトミーを行います。適応と判断した病巣にはESDを行っています。進行癌に対しては吻合も腹腔内で行う完全腹腔鏡下切除術を行い創感染、術後腸閉塞などの合併症が減少しました。

Ikeda T, et.al. Progression from laparoscopic-assisted to totally laparoscopic distal gastrectomy: comparison of circular stapler (i-DST) and linear stapler (BBT) for intracorporeal anastomosis. Surg Endosc. 2013 Jan;27(1):325-32.

肝疾患

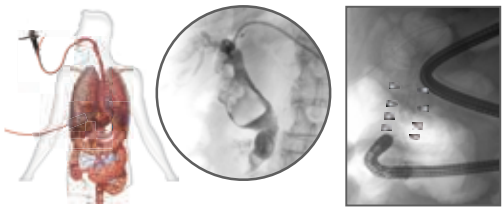
平成28年度から腹腔鏡下肝切除の多くの術式が保険収載されました。肝は横隔膜に覆われた臓器で通常の開腹手術では大きな開腹創が必要となりますが、完全腹腔鏡下切除では病巣を取り出すだけの創でよく、低侵襲性が顕著です。特に肝臓の右葉の背側の肝切除を我々が考案した左半腹臥位で行うことによって、出血の少ない安全な切除が可能となりました。

左半腹臥位での腹腔鏡下肝切除

Ikeda T et. al. Laparoscopic liver resection in the semiprone position for tumors in the anterosuperior and posterior segments, using a novel dual-handling technique and bipolar irrigation system. Surg Endosc. 2014 Aug;28(8):2484-92.

膵胆道疾患

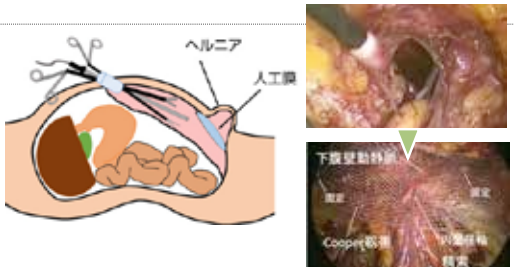
胆道結石、肝内結石および胆道系の狭窄などに対して内視鏡的治療を行っております。特に難治性の胆道狭窄（生体肝移植後胆道狭窄）症例に対しては経皮的胆道アプローチを併用したRendezvous治療を行っております。また、消化管再建術後の症例に対してはダブルバルーン内視鏡下での治療も行います。胆石症に対するニードル鉗子を用いた胆嚢摘出術、膵腫瘍に対しても完全腹腔鏡下の膵体尾部切除を行っております。


Rendezvous治療　ダブルバルーン内視鏡

Kimura K. Ikeda T et. al. Rendezvous Technique Using Double Balloon Endoscope for Removal of Multiple Intrahepatic Bile Duct Stones in Hepaticojejunostomy After Living Donor Liver Transplant: A Case Report. Transplantation Proceedings, 51, 579e584 (2019)

鼡径ヘルニア、腹壁ヘルニア

鼠径ヘルニアは嵌頓を起こさなくとも、放置することで日常生活の多くの場面で消極的になってしまう疾患です。日本では年間１５万件の鼠径ヘルニア手術が行われています。近年、人工補強材（メッシュ）が標準的に使われるようになり、以前と比べて再発率は低下しました。当院では全身麻酔が可能な成人例にはＴＥＰ法を採用しています。腹壁の内側から併存ヘルニアの見落としのない正確な診断と確実な補強ができるので、再発の可能性は限りなくゼロとなる理想的な治療法です。

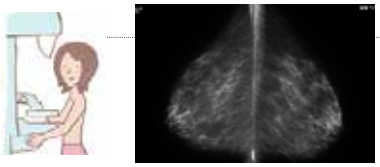


外鼡径ヘルニアに対するTEP法

和田寛也、鼠径部ヘルニアの手術（監修　冲永功太）　TEP法　標準術式（バルーン法）．　：149－156, 2018.

乳腺疾患

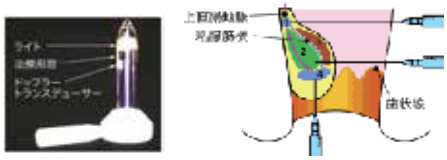
近年，日本では乳がんの罹患率が急速に増加しており、生活の欧米化が原因と考えられています。検診、診断から治療まで専門性の高い分野になってきました。新たな薬も多数開発され個別化治療も進んでいるため、専門医の渋田健二臨床教授を中心に診療を行っております。


マンモグラフィーによる乳癌検診

Shibuta K et. al. The relevance of intrinsic subtype to clinicopathological features and prognosis in 4,266 Japanese women with breast cancer. Breast Cancer. 2011 Oct;18(4):292-8.

直腸・肛門疾患

痔核、裂肛、肛門周囲膿瘍、痔ろう等が対象の疾患です。モリコーンは、極めて低侵襲な治療により痔核による脱出、出血などの症状を改善しようという目的で、守永和正臨床教授が開発した治療器具で、ジオン注射法（四段階注射法）とは、ジオンを痔核上極、痔核内（深層、表層）、歯状線付近の四カ所に注射し手術に準じた効果を得ようとする治療法です。


痔核に対するモリコーンジオン注射法

Morinaga K, Hasuda K, Ikeda T. A novel therapy for internal hemorrhoids: ligation of the hemorrhoidal artery with a newly devised instrument (Moricorn) in conjunction with a Doppler flowmeter. Am J Gastroenterol ; 90 : 610-613, 1995

学会資格

【学会専門医】日本外科学会専門医・指導医，日本消化器内視鏡学会専門医・指導医，日本消化器外科学会専門医・指導医，日本大腸肛門病学会専門医・指導医、日本がん治療認定医，日本乳癌学会乳腺専門医，マンモグラフィ読影医【学会認定施設】日本外科学会関連施設、日本消化器外科学会関連施設、日本大腸肛門病学会関連施設、外科周術期感染管理教育施設、日本がん治療認定機構認定研修施設

整形外科・リハビリテーション科

科長 井上敏生

概要

四肢体幹の運動器疾患、特に足部疾患に対して、質の高い治療を行うとともに、日常診療全般において安全に留意した治療を行います。手術は基本的に入院にて行います。日帰り入院も行っています。リハビリテーションにも力を入れています。

対象疾患

- 運動器疾患全般の診察・治療を行います。足部疾患では外反母趾などの足趾の変形と疼痛、捻挫 や軟骨障害等のスポーツ障害、変形性足部関節症や成人扁平足などの変性疾患などがあります。また、骨折や靭帯損傷などの外傷性疾患、変形性関節症等の変性疾患等に対し、小児から高齢者まで、診断・治療を行います。

アピール・得意分野

- 整形外科全般ですが、特に足部疾患です。外反母趾では体操指導・装具作成および手術による治 療を行います。足関節疾患では、関節鏡（内視鏡）による治療も行います。また靴による痛み等に 関する相談も受け付けます。疾患によっては、リハビリテーションプログラムを提供いたします。小児整形疾患の診断・治療も行っていますのでご相談下さい。

以下の学会専門医・認定医がいます

日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、
日本整形外科学会認定スポーツ医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、
日本リハビリテーション学会リハビリテーション科専門医
財団法人日本体育協会公認スポーツドクター

外反母趾の矯正手術

小児科・神経小児科・予防接種センター

科長 鳥巣浩幸

概要

小児科・神経小児科・予防接種センターは、外来を中心に診療を行っています。当科では、一般的な小児外来診療に加えて、神経・発達外来と予防接種外来（福岡県予防接種センターに指定されています）を開設しており、「けいれんや発達障害の診療」、「かかりつけ医での接種が難しい児の予防接種」、「海外渡航に際しての予防接種」を行っています。地域の小児科の先生方や病院の先生方と緊密に連携をとりながら、子どもたちに“安心・安全の医療”が提供できるよう、スタッフ一同で取り組んでいます。

対象疾患

- 小児疾患一般
- 小児のけいれん性疾患
- 小児の発達関連疾患（発達の遅れ、落ち着きがない、集団での行動が難しい　　など） 予防接種（渡航時の接種を含む）

アピール・得意分野

小児神経疾患

- 時間をかけて丁寧に問診を行い、神経学的診察を行います。
- 院内で小児の脳波検査、MRI 検査を行うことができます。
- 臨床心理士による発達評価（WISC-IVなど）、心理面接を行うことが出来ます。

予防接種

- 時間をかけて予防接種に関するカウンセリングを行います。
- 食物アレルギーなどで予防接種が難しい児に対応しています。
- 海外渡航の予防接種に関しては成人にも対応しています。
- 予防接種後の副反応（コッホ現象など）についても対応しています。

学会専門医・認定医

日本小児科学会専門医（4名） 日本小児神経学会専門医（1名）

日本てんかん学会指導医・専門医（1名） 日本感染症学会指導医・専門医（1名） ICD (インフェクションコントロールドクター)（1名） 子どもの心相談医（1名）

皮膚科

科長 古村南夫

概要

皮膚科疾患全般の診断と治療を行っています。皮膚皮下軟部組織腫瘍の生検と病理組織学的診断、画像診断（CT、MRI、軟部組織超音波検査）および外科的治療を行っています。

対象疾患

- 皮膚のヘルペス感染症（顔面帯状疱疹、ハント症候群、カポジ水痘様発疹症）や蜂窩織炎、重症薬疹の入院治療を行っています。最新治療として乾癬のアプレミラスト内服、アトピー性皮膚炎のデュピルマブ注射を開始しました。しみ・あざについてはカウンセリングと、レーザートーニングを含む Q スイッチヤグレーザー治療が可能です。

アピール・得意分野

- アレルギーの精密検査は、歯科金属アレルギーのパッチテスト検査（要電話予約）、口腔アレルギー症候群や蕁麻疹、ラテックス・食物アレルギー、食物依存性運動誘発性アナフィラキシーの特異的
- IgE 検査が可能です。
- 難治性口内炎・歯肉びらんなど自己免疫性水疱症（天疱瘡、類天疱瘡）が疑われる患者さんについては、血清中の自己抗体を検出するとともに、久留米大学病院皮膚科と連携して蛍光抗体法と血清免疫学的検査が可能です。

学会専門医・認定医

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医２名、日本皮膚科学会認定レーザー・美容皮膚科指導専門医1名

眼科

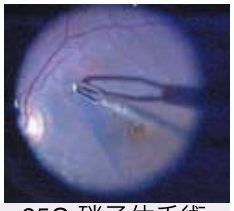
科長 川野庸一

概要

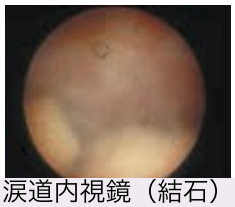
白内障・緑内障・糖尿病網膜症・網膜剥離などの眼疾患全般について、最新の検査・治療機器を 用いて診断・治療をおこなっています。また外眼部（まぶたや眼窩）に生じる腫瘍性・炎症性疾患、眼瞼内反症、鼻涙管閉塞に伴う流涙症などについても対応しています。さらにぶどう膜炎な どの眼科領域の炎症性疾患の診断と治療も行っています。

対象疾患

- 白内障
- 緑内障の薬物療法及び手術治療
- 糖尿病網膜症、網膜血管閉塞症に対する薬物療法、レーザー治療、
- 硝子体手術治療
- 加齢黄斑変性に対する薬物療法。
- 黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離に対する硝子体手術治療
- ぶどう膜炎に対する診断と薬物療法
- 眼瞼内反症、眼部腫瘍性疾患に対する手術療法
- 流涙症に対する涙道内視鏡を用いた涙管チューブ挿入術など。



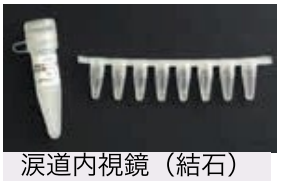
25G 硝子体手術



涙道内視鏡（結石）

アピール・得意分野

- 白内障手術は日帰り手術か入院手術を患者さんの状況に合わせておこなっています。全身麻酔での手術や１週間程度の入院での両眼手術も可能です。緑内障手術や網膜硝子体手術（血管新生緑内障や増殖性硝子体網膜症など重症例を含む）は入院でおこなっています。
- ぶどう膜炎診療も得意としており、先進医療にも認定されているウイルス性ぶどう膜炎の迅速診断も始めました。
- 主な検査装置として、光干渉断層撮影装置（OCT）、超音波断層撮影装置、レーザー眼軸長測定装置、角膜形状解析装置、角膜内皮撮影装置、自動視野計があります。



涙道内視鏡（結石）

学会専門医・認定医

日本眼科学会

手術室

外来スタッフ

耳鼻咽喉科

科長 山野貴史

概要

耳鼻咽喉科は、外・中耳、鼻副鼻腔、咽喉頭、頚部などに発生する腫瘍、外傷、先天異常など種々 の病気に対して、外科的治療を主にして対応しています。また、めまい、難聴、耳鳴り、顔面神経 麻痺など保存的療法が主体の疾患に対しても診療に当たっています。一方、聴覚や平衡覚はもとより、味覚、嗅覚などの感覚器官、発声や嚥下などに関わる運動器官をも対象としており、その診断や治 療を含む、いわゆるＱＯＬの改善にも、積極的に努めている診療科です。

対象疾患

- 耳疾患（突発性難聴、顔面神経麻痺、急性中耳炎、滲出性中耳炎、耳管狭窄症） 鼻疾患（アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、術後性頬部嚢胞、鼻出血等）
- 咽頭疾患（慢性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、魚骨異物、アデノイド増殖症等） 喉頭疾患（声帯ポリープ、声帯麻痺、嚥下障害、急性喉頭蓋炎等）
- 頚部疾患（唾石、顎下腺 or 耳下腺腫瘍、頚部蜂窩織炎等）

アピール・得意分野

- 嚥下障害に対する嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査を用いての経口摂取の可否や適切な食形態の選択
- 嚥下障害に対する集学的治療（入院・外来での嚥下リハビリテーション、嚥下機能改善手術、歯科との連携での舌接触補助床や軟口蓋挙上装置の作製等）
- 頭頸部癌術後や脳血管障害など構音障害に対するリハビリテーション
- 一側性声帯麻痺の嗄声への声帯内方移動術（声帯内脂肪注入や甲状軟骨形成術）
- 耳下腺顎下腺を含めた唾液腺疾患の手術
- インプラント関連を含めた歯性上顎洞炎に対する内視鏡下鼻内副鼻腔手術
- アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法
- 言語聴覚士2名が嚥下リハビリテーションのスタッフとして在籍しており外来入院のどちらでも対応できます。

学会専門医・認定医

日本耳鼻咽喉科専門医2名　補聴器相談医1名

嚥下内視鏡検査

嚥下造影検査

心療内科

科長 金光芳郎

概要

心療内科は「こころ」の面から「からだ」の症状を診る内科です。内科医としての技術を基礎に、いろいろな「こころ」と「からだ」の悩みを持っている患者の方々のお話をお聴きして、心身両面 からの治療を行なっています。

対象疾患

- 心療内科でみることの多い病気には、高血圧症、糖尿病、肥満などの生活習慣病、気管支喘息、胃十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、頭痛、自律神経失調症などがあります。これらの病気で、起こ る原因やなかなか良くならない原因に、心理社会的要因やストレスが関係しているものを総称して「心身症」と呼ばれています。

アピール・得意分野

- 心療内科では、内科的な疾患を中心に診療していますが、一般の内科と違うところは、身体をみながら常に患者さんの心や社会生活の面に注意を向けていることです。精神科と違うところは、心と同時に身体に配慮していることです。長引く症状があってもそれがストレスからくるものであるとか、心理的な原因であるということは、本人自身はなかなか気が付かないものです。症状が長く続く場合、検査でははっきりした異常が見られない場合、多彩な症状が繰り返し出る場合、などには一度心療内科に相談して下さい。当科においては、治療として、薬物療法に加えて、カウンセリング、自律訓練法、交流分析、認知行動療法、バイオフィードバック法などを行っています。

学会認定施設

日本心身医学会研修診療施設

美容・形成外科

科長 萩家康弘

概要

形成外科は人体の " 形 " を整えることを主な目的とした医学・医療です。

対象疾患

1) 老化にともなう変形に対する治療（抗加齢美容医療）
2) 「やけど」や「顔のケガ」のような外傷の治療
3) 褥瘡や治りの悪い傷（難治性潰瘍）など創傷管理・治療

アピール・得意分野

- 加齢にともなうお顔の変形に対して全体の機能的観点から当科で専門的治療を行うことを、抗加齢 (アンチエイジング) 美容医療と呼んでいます。代表は、顔のしみ・しわ・たるみ、および老人性眼瞼下垂症 (まぶたのたるみ) です。老人性眼瞼下垂は頭痛や肩こりなどの症状とも関係があり、手術により、これらの症状が改善する可能性があります。
- 形成外科・美容外科全般をカバーします。生活の質や変形を改善する手術は健康保険がきかないと思われていますが純粋な美容医療をのぞき、保険適用されるものもあるので診療内容だけでなく診療費についても、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。完全予約制で十分時間をお取りしてご説明いたします。

学会専門医

日本専門医機構形成外科領域専門医　　1名

口腔顔面美容医療センター

科長 山下潤朗

概要

口腔顔面美容医療センターは，自然で美しい口元，自然で美しい笑顔の回復をゴールとします．上顎の前歯が出っ歯になってきた，下顎の前歯が重なってとび出てきた，前歯１本の歯並びが悪く て気になる，笑うと歯茎がいっぱい露出して恥ずかしい．そのような患者さんのお困りを取り除きます．まず歯周治療をしっかりと行って土台を健康で強固なものとし，次にＭ．Ｔ．Ｍ．（小矯正），歯周外科処置，そしてインプラントや天然歯の補綴修復処置により，口元を自然で審美的なものへ 変えていきます．また，美容外科医が，顔面領域のしわ，しみ，余分な脂肪，むだ毛を最新のレーザー を用いて治療します。

対象疾患

- ガミースマイル，歯根露出，重度の歯周病，噛み合わせ崩壊，着色歯の治療，骨粗鬆症患者の抜歯、褥瘡や治りの悪い傷（難治性潰瘍）など創傷管理・治療

アピール・得意分野

- 英語での治療を提供しています.
- ガミースマイル治療　・重度な歯周病の治療 ・歯周組織再生治療　・歯槽骨増生術
- セラミック修復による審美歯科治療　・補綴修復による全顎的な咬合再建　・根面被覆術

学会認定医・専門医

米国歯周病・インプラント外科専門医，日本臨床歯周病学会認定医，日本補綴歯科学会専門医 / 指導医

総合歯科・口臭クリニック

科長 廣藤卓雄

概要

総合歯科では、新患患者さんの初診業務と予防歯科業務、さらには成人の虫歯、歯周病、入れ歯などの一般歯科治療を行っています。患者さんが自覚している口腔内の不調はもちろん、気付かずに悪くなっている部位はないかを調べ、十分な検査・診断の下、治療計画を立て総合的な治療を進めています。
当科では患者さんが複数の専門科を行き来することなく、一診療科にて安心して治療が受けられるよう、様々な分野の専門医が在籍し、その指導の下、治療を行っています。また、必要に応じて各専門診療科とも連携を取りながら、診療に当たっています。

対象疾患

- 成人の虫歯、歯周病、歯の欠損に対してのブリッジや入れ歯などの一般歯科治療、有病者の歯科治療、口臭症の検査や治療、など包括的な歯科治療を行います。また、歯科衛生士と連携した口腔ケアにも力を入れています。

アピール・得意分野

- 口臭が気になる患者さんの相談・診断・治療にあたる口臭クリニック、笑気鎮静法を利用した歯科治療、持病があって治療に注意が必要な患者さん、入院・手術・化学療法などのがん治療の患者さんや近隣の急性期病院の入院患者さんの口腔ケア・歯科治療も担当しています。

包括的な歯科治療

口臭クリニック

学会認定医・専門医

日本歯科保存学会専門医・指導医（３名）、日本歯周病学会専門医･指導医（１名）、日本口腔衛生学会認定医･指導医（４名）、日本総合歯科学会認定医・指導医（３名）、日本口臭学会専門医（２名）、日本歯科心身医学会認定医（１名）、日本有病者歯科医療学会認定医・専門医・指導医（１名）、日本老年歯科医学会認定医（１名）、日本障害者歯科学会認定医（１名）、日本口腔感染症学会認定医（１名）、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医歯科医師（１名）、インフェクション･コントロール・ドクター（ICD）（３名）、米国心臓協会インターナショナルフェロー（１名）

学会認定施設

日本歯科保存学会、日本総合歯科学会、日本有病者歯科医療学会、日本口腔衛生学会

高齢者歯科

科長 内藤　徹

概要

超高齢社会を迎えた現在、病気や飲んでいるお薬のために歯科治療を受けることが心配な患者さんが多くなってきました。たとえば、脳卒中を起こしたため血液がサラサラになる薬を飲んでいる、骨粗鬆症の治療のために骨を強くする薬を飲んでいるため抜歯の時には気を付けるように整形外科の先生から言われている、認知症が進行しているため家族にでも口の中を見せてくれない要介護の方がいる、といった患者様からのご相談を受けることも多くなってきました。高齢者歯科では、このような一般の歯科診療所にかかるのには不安のある患者様のために、医科の主治医の先生と緊密な連携をとりながら、かかりつけの病院での治療内容や、現在服用している薬についての正確な情報を収集しながら、より安全な歯科治療を行います。また、車いすの患者様にも対応できるような診療体制を整備しています。さらには、歯科治療中の体調の変化に対応できるよう、必要に応じて血圧や酸素飽和度等のモニタリングを行いながら、安全に治療を進めていきます。

とくにこんな患者様を高齢者歯科で診ています

- 病気をお持ちのご高齢の方のむし歯の治療、抜歯、入れ歯作製
- 車いすの方の歯科治療
- 食事の際にムセが起きやすい方の嚥下障害の診断とリハビリテーション

一般の歯科と少し違う点

- 医科の主治医の先生と文書による連携をとりながら、患者様の全身疾患の状態を正確に把握します。
- スタッフは、車いすの患者様でも、治療用の椅子に上手に移乗するためのトレーニングを受けています。
- 車いすから移乗できない患者様は、車いすのまま治療が受けられる機材を用意しています。
- 血液サラサラの薬の効き具合、糖尿病の重症度などを診療室で測ることができます。
- 飲み込みの機能が低下した患者様の嚥下障害の程度をさまざまな検査で評価できます。
- 認知症等のためにじっとしていることができない患者様でも、熟練したスタッフが上手に診療することができます。
- 病院や介護施設などで、要介護の方の口腔ケアの指導が必要な場合には、スタッフが指導に伺うこともできます。

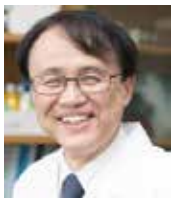
学会認定医・専門医

日本老年歯科医学会認定医・専門医・指導医（２名）、日本歯科保存学会専門医・指導医（１名）、日本歯周病学会専門医（１名）、口腔インプラント学会認定医（１名）、日本補綴歯科学会専門医（１ 名）、日本歯科心身医学会認定医・指導医（２名）、摂食機能療法専門歯科医師（１名）、日本有病者歯科医療学会認定医（１名）

学会認定施設

日本老年歯科医学会、日本歯科保存学会、日本歯科心身医学会

保存（むし歯）科



科長　阿南　壽

概要

保存（むし歯）科では、「なるべく歯を残すこと」と「なるべく痛みのない治療」をモットーに、主にむし歯の治療と歯の根の治療（根管治療）を行っています。

日本歯科保存学会の専門医および認定医を中心として、歯内療法を基盤とした包括的な歯科医療に取り組んでいます。また、他科および他院より御紹介頂いた難治性根尖性歯周炎の患者さんを担当しています。

対象疾患

- 象牙質知覚過敏症、むし歯、歯の破折、審美障害、歯髄炎、根尖性歯周炎、歯内－歯周疾患など。
- 難治性根尖性歯周炎に対して、歯科用コーンビームCT 検査および歯科用マイクロスコープを併用したマイクロエンド（精密根管治療）および歯根尖切除法などの外科的歯内療法を行っています。

アピール・得意分野

- むし歯・審美障害の修復治療、歯髄炎・根尖性歯周炎に対する根管治療、歯内－歯周疾患の専門的治療を行っています。また、難治性根尖性歯周炎に罹患した患者さんに病状を分かり易く説明し、再根管治療を注意深く行っています。一方、十分な治癒が得られない場合は、外科的に原因病変を除去することにより治療を行います。このように当科では、システマティックに難治性根尖性歯周炎に対応できることを得意としています。さらに、歯科用コーンビームCT 検査やマイクロスコープを応用した根管の精密検査を毎日の診療で行っています。
- 当科のクリニカルインディケーターとしてのマイクロスコープ使用件数は、2018年度230件でした。

マイクロスコープによる精密根管治療

歯根尖切除法による根尖病変の治癒

学会認定医・専門医

日本歯科保存学会専門医2名・認定医6名、日本外傷歯学会認定医2名、日本歯周病学会専門医1名

補綴科（入れ歯科）

科長 松浦尚志　　副科長 都築　尊

概要

補綴科とは、取り外し式の入れ歯、歯やインプラントの上に固定性のクラウン（かぶせもの）・ブリッジを製作し、かみ合わせを回復させ、咀嚼、発音、審美の改善を図る専門の診療科です。これらの治療は従来の方法に加えて、最新のデジタル技術（CAD/CAM）を用いた方法も駆使して行っています。また、難症例の総義歯（総入れ歯）、局部床義歯（部分入れ歯）、さらに口腔がん治療後の顎義歯（顎のない部分に入れる入れ歯）を他施設と連携しながら専門的に行っています。

対象疾患

- 歯の崩壊や喪失によって生じる咀嚼障害、審美障害など
- がんの切除に伴う顎骨の欠損
- 顎関節症、歯ぎしりなど

アピール・得意分野

- １本の歯の欠損から、すべての歯を失ってしまった状態まで、広い範囲でのかみ合わせの回復を専門としています。まず患者さんと歯を失ってしまった原因を一緒に考え、他の歯を失わないための方法を提案しながら、患者さんにとって最もよい方法を考えます。
- 咬み合わせを回復させる方法としては、クラウン・ブリッジなどのかぶせもの、取り外し可能な入れ歯、インプラントという方法を駆使して、患者さんの必要に応える治療法を提案します。近年では、金属を全く使わないかぶせものや、デジタル技術を用いて、患者さんの負担が少ない治療法も取り入れており、多くの患者さんの満足に応えられるように努めています。
- また、かみ合わせを回復させて終わりではなく、患者さんの満足度評価、機能評価、栄養評価を行い、必要に応じて言語聴覚士、栄養士と連携し、多職種での対応を行っています。

金属を使わない審美的なかぶせもの

専門医による多数歯の治療によるかみ合わせの改善

学会認定施設

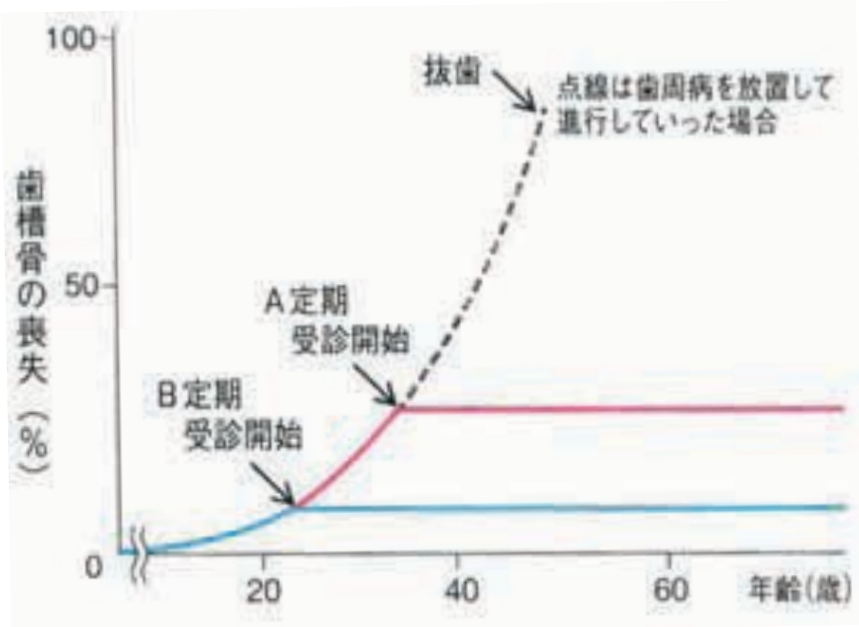
日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本顎顔面補綴学会

歯周病科

科長 坂上竜資

概要

歯周病は、中年以降の日本人の８０％がかかっており、早期に治療を開始すれば進行を止められる病気です（下図参照）。歯周病科では、なるべく歯を抜かずに、残っている歯を保存できるような治療を心がけています。
治療においては、患者さんご自分で徹底的に歯磨きできるようになってもらうことが１番大切で す。すでに歯ぐきの中にたまった汚れは、われわれがスケーリングとルートプレーニングを行って、歯石とプラーク（バイオフィルム）を取り除きます。
歯周病科では、必要に応じて歯周外科手術や、インプラント治療、かみ合わせの治療も行っています。



（日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会：日本人はこうして歯を失っていく、坂上の図）

対象疾患

- 歯周病（歯肉炎、歯周炎）、歯周病にともなう歯の欠損部への治療、歯肉退縮など

アピール・得意分野

- 歯周組織の再生療法、審美的な歯周組織の回復、歯周病患者へのインプラント治療、歯周組織の減少した患者への補綴治療、長期にわたるメインテナンスを可能にする管理などを行っています。

学会認定医・専門医

日本歯科保存学会認定医・専門医・指導医（３名）、日本歯周病学会認定医・専門医・指導医（9名）、日本臨床歯周病学会指導医（１名）、歯周インプラント指導医（1名）、米国歯周病学会専門医（１名）

学会認定施設

日本歯科保存学会、日本歯周病学会、日本臨床歯周病学会

口腔インプラント科

科長 城戸寛史

概要

インプラントは、むし歯や歯周病で抜けた歯にかわって咬み心地や見た目を回復するための治療法 です。当科ではコンピュータによるインプラント手術のシミュレーションを行い、計画通りのより安全な手術を行うためのシステムを採用しています。また、国内で流通しているほとんどのインプラントシステムに対応可能であり、様々なインプラントシステムで治療を行うことができます。インプラント治療が困難な場合には骨造成（骨を作る治療）も行っています。また、手術の際に麻酔科と連携し、全身麻酔もしくは鎮静麻酔下（半分寝ているような状態）での治療も可能です。
1本の治療から複数の歯の治療、前歯の審美修復など、幅広く対応しています。奥歯でしっかり噛みたい方、取り外し式から固定式に変えたい方、またはインプラント相談も受け付けています。お気軽にお越しください。

対象疾患

- 歯の欠損（1本～複数本、無歯顎も可能）

アピール・得意分野

- ・手術室の清潔環境下でのインプラント手術
- ・麻酔科による鎮静下でのインプラント手術
- ・ガイドを使用した安全なインプラント手術
- ・CAD/CAM （コンピューター）技術による上部構造（かぶせ物）の製作
- ・インプラント治療困難な方のための骨造成（骨を作る）治療
- ・セラミックによる審美修復
- ・研究データや論文を基にした治療。

学会認定医・専門医

日本口腔インプラント学会認証医・専門医・指導医５名、日本顎顔面インプラント学会専門医・指導医２ 名、日本補綴歯科学会専門医・指導医1名、International Congress of Oral Implantologist（国際インプラント学会）Fellow (認証医)・Diplomate（専門医）3名

学会認定施設

日本口腔インプラント学会、日本顎顔面インプラント学会

インプラント治療とは

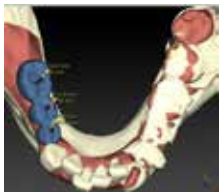
参考：日本口腔インプラント学会
http://www.shika-implant.org/

歯が抜けたところの顎の骨に人工の歯の根を埋めて、それを土台にして歯をつくる治療です。

メリット
・ブリッジのように隣の歯を削る必要がない。・義歯のように取り外しの面倒や口の中の違和感がない。・残っている歯に対する負担が少ない。

デメリット
・保険適応外のため治療費が比較的高額。・治療期間が長め。

インプラント治療の実際の流れ



コンピューターシミュレーション時の画像です。私たちは CT 画像を基にコンピューターにてシミュレーションを行い、手術前に正確な診断を行います。手術の際にはこのデータを基に作製されたサージカルガイドを使用しより安全で正確なインプラント治療を行います。

この患者様は右下の歯を無くし、右の奥歯で噛めない状態でした。コンピューター診断を行いインプラント治療を行いました。

インプラント治療終了時の写真です。右下にインプラントによって支えられた歯が入っています。穴が開いているのは歯とインプランントを連結するためのねじ穴です。最終的には白く塞ぎます。

障害者歯科

科長 小島　寛

概要

日本障害者歯科学会認定医制度の研修施設である当科は、知的障害、発達障害（自閉スペクトラム症等）、精神障害、身体障害を伴う患者さんの歯科治療を行っています。通常の治療のほか、笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法、全身麻酔法を適用するための設備やスタッフが整っています。
ほとんどの患者さんは当初の治療がひと段落した後も継続的に歯科的管理を受けることが多く、それを長続きさせるためには診察や検査に対する抵抗感を切り替えることが重要です。当科スタッ フは、患者さんが安心して診療を受けられることを第一に考え、行動変容技法を歯科診療に取り入 れることにも取り組んでいます。
待合室は他の診療科から独立していますので、周囲を気にする必要がありません。スペースも広いので、車椅子やバギーでの移動や待機も楽です。

対象疾患

- 知的障害者、発達障害者（自閉スペクトラム症等）の歯科疾患全般
- 身体障害者（含、視覚障害者・聴覚障害者）の歯科疾患全般
- 精神障害者の歯科疾患全般
- その他、心理的に特別な配慮が必要な患者さんの歯科疾患全般

アピール・得意分野

- 歯科治療への抵抗感を改善するための行動変容技法の適用

  当科でもっとも重視している領域です。初診当初の歯科治療では全身麻酔等を適用するしかない患者さんであっても、定期検診や歯垢・歯石除去は身体抑制することなく診察できるよう、歯科診療を受けれてもらうトレーニングに力を入れています。
- 全身麻酔法による歯科治療

  平成30年度の実績では知的障害のある初診患者の約15%、発達障害のある初診患者の約11%に適用しました。
- 静脈内鎮静法による歯科治療

  知的障害、発達障害、脳性麻痺、精神疾患、異常絞扼反射のある方、歯科治療に恐怖を感じる方等に幅広く適用しています。
- 笑気吸入鎮静法による歯科治療

  酸素・笑気ガスを各ユニットに配管しており、いつでも使用可能です。

学会認定医・専門医

日本障害者歯科学会認定医指導医・専門医（１名）、認定医（６名）

学会認定施設

日本障害者歯科学会

矯正歯科

科長　玉置幸雄

概要

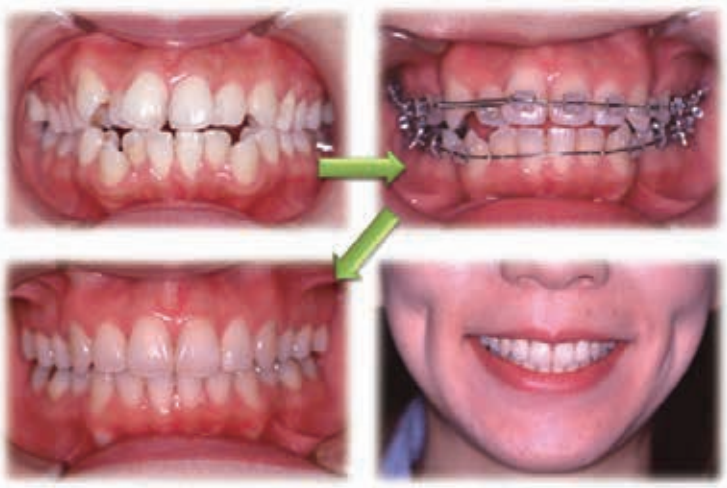
矯正歯科では、歯の並びのデコボコ、出っ歯、受け口などの咬み合わせの問題を治療します。歯の移動、顎成長のコントロール、手術的な顎骨の移動により、個々の患者様に合った理想的な咬み合わせにします。これにより、咀嚼、発音、嚥下などの機能面が向上し、美しい歯並びによる磨きやすさや審美性が向上し、口腔に関するQOL が向上します。

対象疾患

- 叢生（デコボコ）、上顎前突（出っ歯）、反対咬合（受け口）などの咬み合わせの異常、 唇顎口蓋裂患者の歯並び、上顎や下顎のアンバランスな成長、未萌出の永久歯など。

アピール・得意分野

- 叢生（デコボコ）、上顎前突（出っ歯）、反対咬合（受け口）などの咬み合わせの異常、 唇顎口蓋裂患者の歯並び、上顎や下顎のアンバランスな成長、未萌出の永久歯など。叢生（デコボコ）、上顎前突（出っ歯）、反対咬合（受け口）などの咬み合わせの異常、 唇顎口蓋裂患者の歯並び、上顎や下顎のアンバランスな成長、未萌出の永久歯など。



叢生のマルチブラケット治療例（永久歯4本を抜歯）

学会認定施設

日本矯正歯科学会

訪問歯科センター

センター長　森田浩光

概要

介護施設に入所中で身体的理由により通院ができない方、ご自宅にお住まいで寝たきりなどのために歯科診療所に行くことができない方、歯科のない病院（主に提携先病院）に入院中でお口の問題をお持ちの方やがん治療（手術・抗がん剤治療・放射線療法）をする方などに対して、当院から診療器材を持参して歯科治療・口腔ケアを行います。
当院から16km 以内の地域に居住の方が対象となります。介護施設などで、入所者の歯科治療や介護スタッフの口腔ケアの講習なども行います。
ただし、定期的に医科（内科、循環器科など）に外来通院されている方は対象になりません。

対象疾患

- 口腔ケアや応急処置をはじめ、体調が安定している方にはむし歯の治療、抜歯、義歯の作製といった一般歯科治療を行います。また、飲み込みの悪い方、ムセのある方の嚥下の検査やリハビリも行います。 ご自分で歯磨きのできない方のご家族への口腔ケアの指導、介護施設のスタッフの方への講習も行います。

アピール・得意分野

- 介護施設入居中や在宅療養中の高齢者の口腔ケア・歯科治療だけでなく、通院困難な障害者の方や主に提携先急性期病院入院中の方の口腔ケア・歯科治療や応急処置を患者様の病態に応じて専門診療科やかかりつけの医師・歯科医師と連携して行います。

学会認定施設

日本有病者歯科医療学会

小児歯科・小児口腔外傷センター

科長　尾崎正雄

概要

小児歯科は、むし歯の治療ばかりでなく、お子様のお口の中のすべての疾患を診断し小児歯科も しくは他科と協力してお子様にとって最善の治療を行います。まず来院されたお子様がどのように 問題を抱えているかお子様と保護者の皆様からお聞きします。そしてお子様の口の中の健康状態を チェックし、問題点をみつけます。それから治療の優先順位を考えながら保護者の皆様と治療方針 を決定していきます。例えば、むし歯の治療を目的とした患者様では、どうすれば怖がらずにスムーズな治療ができるか、また、むし歯予防が出来るかを豊富な写真資料をみながら相談していきます。そして、治療終了後は、むし歯が再発しないように定期管理を行いながら、お口の健康が保たれて いるか、また、歯列や口腔機能が正しく発育しているかを診査していきます。そして問題がみつか れば、より詳しい検査を行い、対処していきます。

対象疾患

- う蝕（むし歯）、口腔機能障害、歯列発育異常、外科的疾患、軟組織疾患、口腔外傷

アピール・得意分野

1．全身麻酔

治療が困難な低年齢児に対して全身麻酔下での集中歯科治療や外科的処置を行っています。

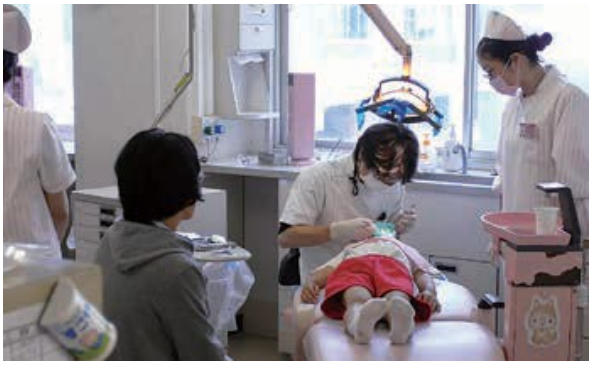
2．発育診断と育成治療

頭部エックス線や歯列模型を用いて顎と歯列の発育診断し、最善の治療方法をアドバイスします。また、口腔機能障害の診断、治療も行っていきます。

3．口腔外傷

最近では口の中を外傷して来院されることが多く、歯を破折したり脱臼させてる小児が多くなってきました。私達の小児歯科では、口腔外傷に関する多くの経験と知識を元に、平成30年より小児口腔外傷歯センターを設立しています。これにより外傷に関わる全ての医科と歯科が協力して対応できるようになりました。より安全で歯大事な歯を残す治療を行っています。

外傷による永久歯の破折



小児歯科診療室での診療風景

学会認定施設

公益社団法人日本小児歯科学会認定指導施設、日本小児口腔外科学会認定指導施設

口腔外科・スポーツ歯科

入院可

科長　池邊哲郎

副科長 平木昭光

概要

口腔外科とは、一般には「歯科口腔外科」と標榜されている診療科です。口腔粘膜や顎骨に発症する腫瘍、外傷、変形、感染、困難抜歯をはじめ、口腔内外に切開が必要な外科治療を主に担当しています。また、口内炎、唾液腺疾患、口腔乾燥症、歯肉出血など医科との連携が必要な疾患の診断と治療も行います。入院設備もあり、全身麻酔で手術を行います。当直医が歯科の急患にも対応しています。

スポーツ歯科はスポーツ外傷を予防するためのマウスガード（マウスピース）の作製を担当しています。

対象疾患

・親知らず（智歯）の抜歯	・口腔がん（舌がんや歯肉がん）
・全身管理が必要な抜歯	・良性腫瘍
・顎顔面の外傷（顎骨骨折、創傷）	・嚢　胞
・歯性感染症	・ドライマウス
・顎変形症	・唾液腺疾患
・各種口内炎	・舌痛症

アピール・得意分野

- 入院下の抜歯、難しい抜歯
- 矯正歯科と連携した顎変形症の顎矯正手術
- 口腔がん手術と遊離皮弁を用いた再建手術
- 薬剤関連顎骨壊死の治療
- 睡眠時無呼吸症候群やスポーツ外傷予防のマウスピース作製
- 顎関節症および顎関節脱臼の治療
- 抗がん剤治療や放射線治療によって生じた口内炎（口腔粘膜炎）
- 抗血栓薬服用患者の抜歯
- 口腔がんを撲滅するためには、口腔がんを早期発見することが大切です。そのために口腔がん検診を積極的に行っています。

学会認定医・専門医

日本口腔外科学会認定医（5名）・専門医（5名）・指導医（4名）、日本口腔腫瘍学会認定医・指導医（2名）、日本がん治療認定機構がん治療認定医（歯科口腔外科）（3名）

麻酔科・ペインクリニック

科長 谷口省吾

概要

手術や歯科治療のための全身麻酔、通常では困難な歯科治療を安心して行うための精神鎮静法、および痛みや麻痺の治療を行うペインクリニックが麻酔科の主な業務です。

アピール・得意分野

１）全身麻酔

手術や歯科治療のための全身麻酔を行っています。外科、整形外科、耳鼻科、眼科、形成外科などの医科疾患の手術や口腔外科、口腔インプラント科の口腔領域の手術が対象です。歯科治療の全身麻酔は、局所麻酔だけでは管理が困難な小児歯科や障害者歯科の患者が対象です。麻酔指導医・専門医、歯科麻酔専門医・認定医を中心に安全な麻酔管理を行っています。

２）精神鎮静法

　歯科治療が怖かったり口の中に器具を入れられると吐き気がするなどで、歯科治療が受けられない患者さんに対し、鎮静薬を投与してリラックスすることで安心して歯科治療を終えることができます。また、高血圧や心疾患などの全身疾患があるため通常では歯科治療が困難な患者さんでも、鎮静法でストレスを減少させることで安全に行うことができます。静脈内に鎮静薬を投与して行う静脈内鎮静法と笑気を吸入して行う笑気吸入鎮静法があります。希望される方は当院の歯科を受診した後に当科の予約をとって行うことになります。障害者歯科、口腔外科、口腔インプラント科その他の歯科の患者さんが対象です。

３）ペインクリニック

三叉神経痛、帯状疱疹、顔面神経麻痺、顔面の痛みやしびれ、腰痛、肩こりなど全身の痛みの治療を神経ブロックや薬物療法、電気治療により行っています。医科疾患は予約制です。

４）その他

局所麻酔薬アレルギー患者の歯科治療の際の全身管理や一次救命処置の講習も行っています。

病理診断科

科長　橋本修一

概要

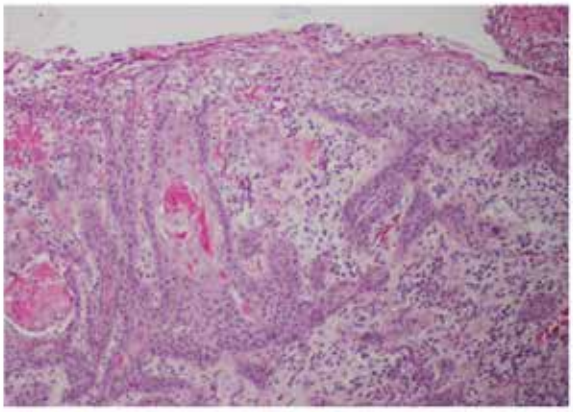
病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の病変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断（例えば口腔癌などの癌病変、あるいは結核・肺炎などの炎症性病変など）および活動性評価（例えば癌では浸潤度、転移の有無など、結核・肺炎では菌の増殖や痰などへの排菌の有無など）を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を決めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。病理診断科では、福岡歯科大学医科歯科総合病院として求められる質の高い病理診断を行うことで患者によりよい医療を享受していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。

対象疾患

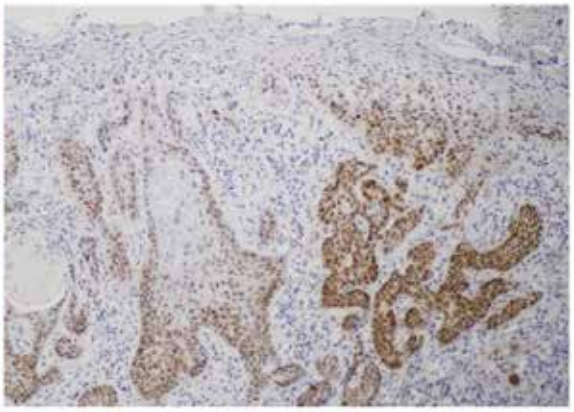
- 医科・歯科領域のすべての疾患を対象に、各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本に対して病理診断を行っています。また、病理解剖による死因のより詳しい解析も行っています。

アピール・得意分野

- 病理および口腔病理専門医のダブルチェック体制による正確、迅速な診断に心がけるとともに、患者情報の機密漏洩防止にも十分注意を払っています。また、臨床科との症例検討カンファレンス や日本病理学会への参加を通じて病理専門医としての能力の向上に努め、医療の向上を目指してい ます。さらに、口腔癌など癌の発生、進展についての機序の解明を目指した臨床病理学的研究を推進しています。



口腔扁平上皮癌　H.E.染色像



口腔扁平上皮癌　p53免疫染色像

学会認定医・専門医

日本病理学会専門医・指導医（2名）、日本病理学会認定口腔病理専門医・研修指導医（2名）、日本臨床細胞学会認定 細胞診専門医（1名）、日本臨床細胞学会認定 細胞診専門歯科医（1名）、日本呼吸器学会専門医（1名）、日本外科学会認定医・認定登録医（1名）、死体解剖資格認定医（4名）、日本障害者歯科学会・認定医（1名）

8．医療機関の承認・指定状況

1　医療機関の開設等

区　分	開設等年月日
医療法に基づく病院開設	昭和48年2月21日
臨床修練指定病院	昭和63年10月15日
日本医療機能評価機構　病院機能評価認定	平成20年５月19日 (平成30年５月11日２回目更新)
福岡県予防接種センター　指定	平成28年4月1日

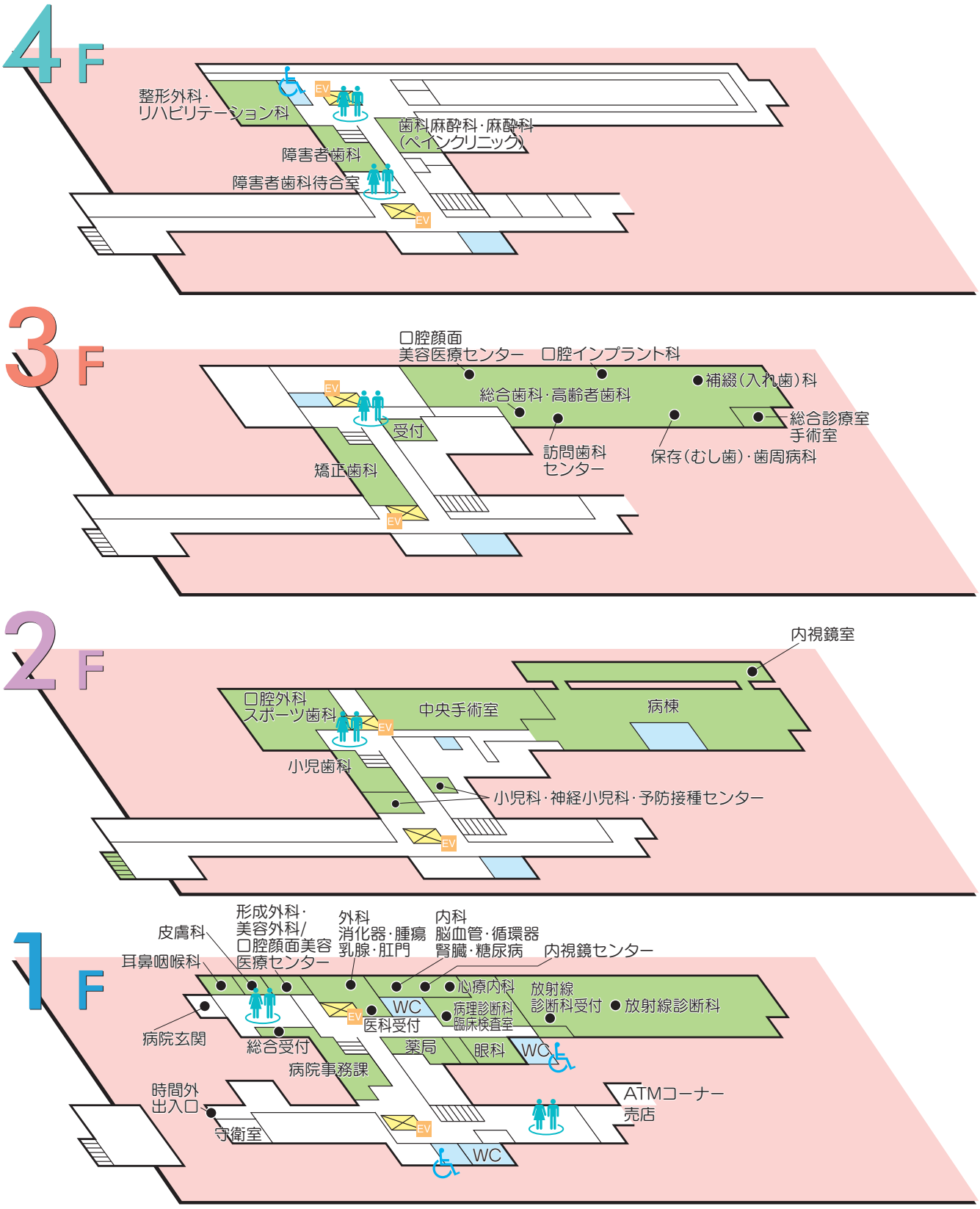
2　学会認定

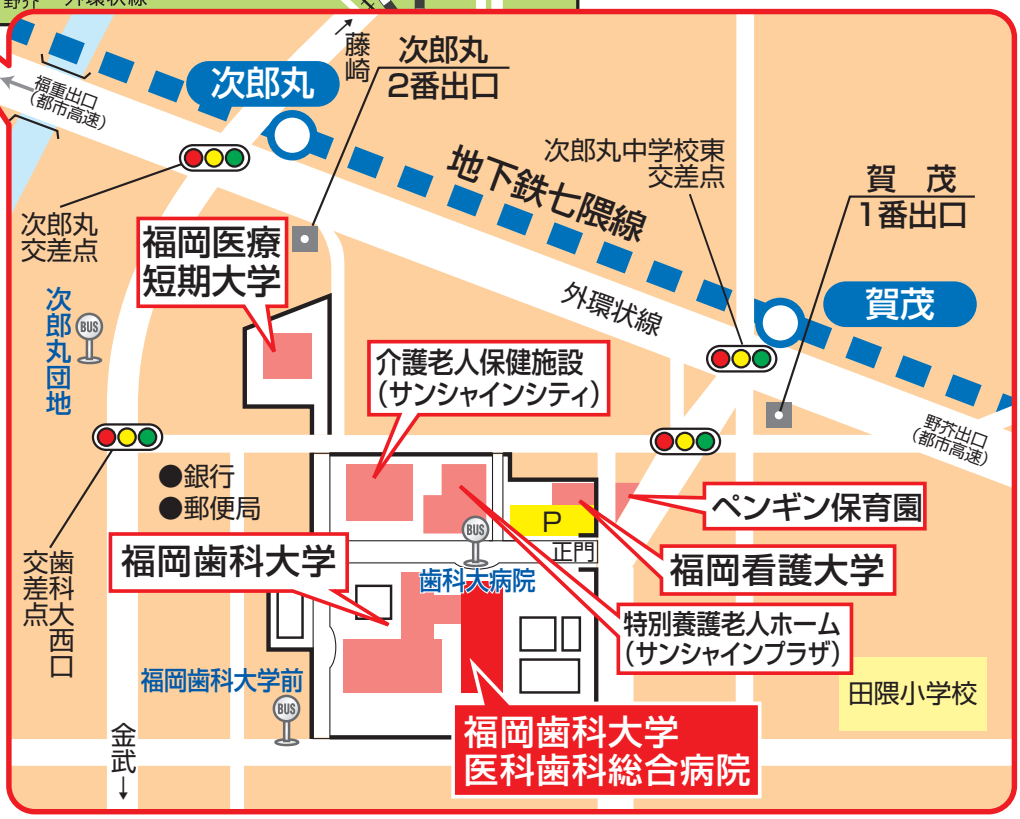
認定施設名	認定施設名
日本外科学会	日本補綴歯科学会
日本消化器外科学会	日本顎関節学会
日本食道学会	日本口腔顔面痛学会
日本眼科学会	日本老年歯科医学会
日本心身医学会	日本障害者歯科学会
日本老年医学会	日本矯正歯科学会
日本高血圧学会	日本小児歯科学会
日本歯科保存学会	日本歯科放射線学会
日本歯周病学会	日本歯科麻酔学会
日本口腔インプラント学会	日本口腔外科学会
日本顎顔面インプラント学会	日本がん治療認定医機構
日本総合歯科学会	日本有病者歯科医療学会
日本口腔衛生学会	

3　福岡歯科大学医科歯科総合病院の施設基準届出一覧（九州厚生局令和元年6月1日現在）

	受理届出名称	受理記号	受理番号	算定開始年月日
A.基本診療料				
1	地域歯科診療支援病院歯科初診料	病初診	第25号	平成31年 3月 1日
2	歯科外来診療環境体制加算２	外来環２	第39号	平成30年10月 1日
3	歯科診療特別対応連携加算	歯特連	第20号	平成24年 4月 1日
4	一般病棟入院基本料	一般入院	第5号	平成24年 7月 1日
5	診療録管理体制加算２	診療録２	第215号	平成22年 4月 1日
6	療養環境加算	療	第296号	平成29年 7月 1日
7	感染防止対策加算２	感染防止２	第104号	平成24年 4月 1日
8	病棟薬剤業務実施加算１	病棟薬１	第123号	平成29年10月 1日
9	データ提出加算	データ提	第237号	平成30年 6月 1日
10	入退院支援加算	入退支	第240号	平成24年 4月 1日
11	地域歯科診療支援病院入院加算	地歯入院	第6号	平成24年 4月 1日
12	認知症ケア加算	認ケア	第243号	令和元年 5月 1日
B. 特掲診療料				
13	入院時食事療養／生活療養（Ｉ）	食	第468号	平成 3年 3月 1日
14	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	医管	第529号	平成18年 4月 1日
15	がん性疼痛緩和指導管理料	がん疼	第226号	平成24年 4月 1日
16	ニコチン依存症管理料	ニコ	第957号	平成29年 7月 1日
17	がん治療連携指導料	がん指	第412号	平成23年10月 1日
18	薬剤管理指導料	薬	第412号	平成19年 4月 1日
19	歯科疾患在宅療養管理料の注４に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料	在歯管	第90号	平成26年 8月 1日
20	遺伝学的検査	遺伝検	第14号	平成29年 4月 1日
21	有床義歯咀嚼機能検査１のイ	咀嚼機能１	第16号	平成28年 8月 1日
22	有床義歯咀嚼機能検査１のロ及び咀嚼能力検査	咀嚼能力	第16号	平成28年 8月 1日
23	有床義歯咀嚼機能検査２のイ	咀嚼機能２	第6号	平成30年 8月 1日
24	有床義歯咀嚼機能検査２のロ及び咬合圧検査	咬合圧	第20号	平成30年 8月 1日
25	精密触覚機能検査	精密触覚	第4号	平成30年 8月 1日
26	検体検査管理加算（Ｉ）	検Ｉ	第308号	平成20年 4月 1日
27	神経学的検査	神経	第175号	平成25年 4月 1日
28	歯科画像診断管理加算１	歯画１	第4号	平成18年 4月 1日
29	歯科画像診断管理加算２	歯画２	第1号	平成24年 4月 1日
30	遠隔画像診断	遠画	第7号	平成23年12月 1日
31	ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影	Ｃ・Ｍ	第652号	平成24年 4月 1日
32	無菌製剤処理料	菌	第132号	平成20年 4月 1日
33	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）	脳Ⅲ	第283号	平成25年 8月 1日
34	運動器リハビリテーション料（Ⅱ）	運Ⅱ	第703号	平成25年 8月 1日
35	呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）	呼Ⅱ	第121号	平成26年 8月 1日
36	がん患者リハビリテーション料	がんリハ	第157号	平成30年11月 1日
37	歯科口腔リハビリテーション料２	歯リハ２	第135号	平成26年 4月 1日
38	口腔粘膜処置	口腔粘膜	第438号	平成30年 4月 1日
39	レーザー機器加算	手光機	第429号	平成30年 4月 1日
40	手術用顕微鏡加算	手顕微加	第35号	平成28年 4月 1日
41	う蝕歯無痛的窩洞形成加算	う蝕無痛	第56号	平成22年 4月 1日
42	ＣＡＤ／ＣＡＭ冠	歯ＣＡＤ	第732号	平成26年 4月 1日
43	手術時歯根面レーザー応用加算	手術歯根	第23号	平成22年 4月 1日
44	有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算１及び２	歯技工	第337号	平成22年 4月 1日
45	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）	硝切	第16号	平成24年 4月 1日
46	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	ペ	第147号	平成13年 6月 1日
47	医科点数表第２章第10部手術の通則の16に掲げる手術	胃瘻造	第57号	平成26年 4月 1日
48	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	造設前	第26号	平成24年 4月 1日
49	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	胃瘻造嚥	第81号	平成26年 6月 1日
50	歯周組織再生誘導手術	ＧＴＲ	第153号	平成20年 4月 1日
51	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	人工歯根	第8号	平成24年 4月 1日
52	歯根端切除手術の注３	根切顕微	第98号	平成29年 4月 1日
53	麻酔管理料（Ｉ）	麻管Ｉ	第85号	平成 8年 6月 1日
54	口腔病理診断管理加算１	口病診１	第1号	平成26年 6月 1日
55	クラウン・ブリッジ維持管理料	補管	第747号	平成 8年 4月 1日
56	歯科矯正診断料	矯診	第95号	平成22年 4月 1日
57	顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る。）の手術前後における歯科矯正に係るもの）	顎診	第1号	平成19年 6月 1日
58	酸素の購入単価	酸単	第136604号	平成30年 4月 1日

院内フロア案内図

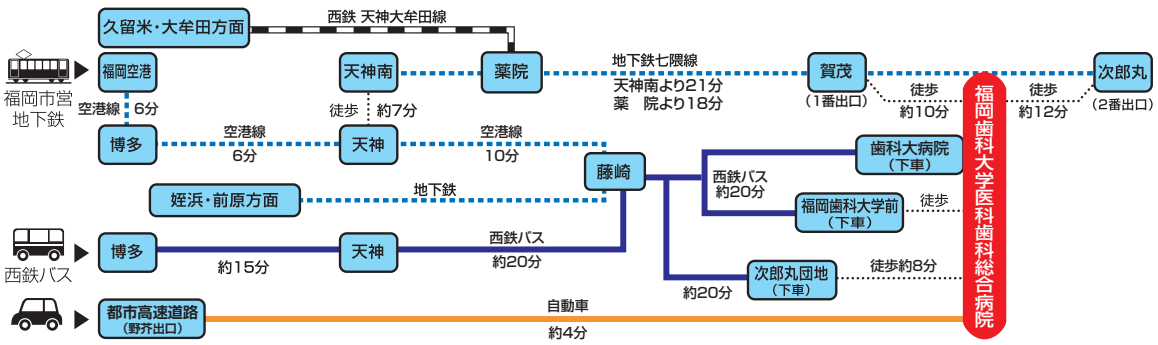

4F
整形外科・
リハビリテーション科
EV
歯科麻酔科・麻酔科
(ペインクリニック)
障害者歯科
障害者歯科待合室
EV
3F
口腔顔面
美容医療センター
口腔インプラント科
補綴(入れ歯)科
EV
総合歯科・高齢者歯科
総合診療室
手術室
受付
訪問歯科
センター
保存(むし歯)・歯周病科
矯正歯科
EV
2F
内視鏡室
口腔外科
スポーツ歯科
中央手術室
病棟
EV
小児歯科
小児科・神経小児科・予防接種センター
EV
1F
形成外科・
美容外科/
口腔顔面美容
医療センター
外科
消化器・腫瘍
乳腺・肛門
内科
脳血管・循環器
腎臓・糖尿病
皮膚科
耳鼻咽喉科
内視鏡センター
心療内科
放射線
診断科受付
放射線診断科
WC
病理診断科
臨床検査室
EV
医科受付
病院玄関
総合受付
薬局
眼科
WC
病院事務課
時間外
出入口
ATMコーナー
売店
守衛室
EV
WC
EV エレベーター
トイレ
身障者用トイレ
待合室



大駐車場完備(150台)

●広い駐車場なので、待ち時間がなく駐車できます。ご利用下さい。

交通のご案内(主要な経路)



福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
電話(092)801-0411㈹ FAX(092)801-0459
ホームページアドレス http://www.fdcnet.ac.jp/hos/

(財)日本医療機能評価機構認定病院

福岡歯科大学医科歯科総合病院

www.fdcnet.ac.jp/hos/

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
TEL 092-801-0411　FAX 092-801-0459
E-mail：hos@college.fdcnet.ac.jp